

令和8年4月27日5時24分頃の十勝地方南部の地震について

震度 5 弱

日高地方中部 新冠町

落石や崖崩れなどに注意

この地震による津波の心配はありません

震度5強を観測

震度5強 浦幌町(うらほろちょう)

(揺れの強かった地域)

落石や崖崩れなどの危険

今後の地震や雨に十分注意

※1週間程度(特に今後2~3日の間)

最大震度5強程度の地震に注意

4月27日05時29分発表



地震の概要

検知時刻 (最初に地震を検知した時刻)	4月27日05時24分頃
発生時刻 (地震が発生した時刻)	4月27日05時23分頃
マグニチュード	6.2(暫定値)
発生場所	十勝地方南部 深さ約 83km
震度	【最大震度5強】 北海道の浦幌町(うらほろちょう)で震度5強を観測しました。 胆振・日高地方では新冠町(にいかつぱちょう)で震度5強弱を観測しました。
長周期地震動の観測状況	石狩地方北部、石狩地方南部、上川地方南部、北見地方、胆振地方中東部、日高地方中部、日高地方東部、十勝地方中部で長周期地震動階級1を観測しました。

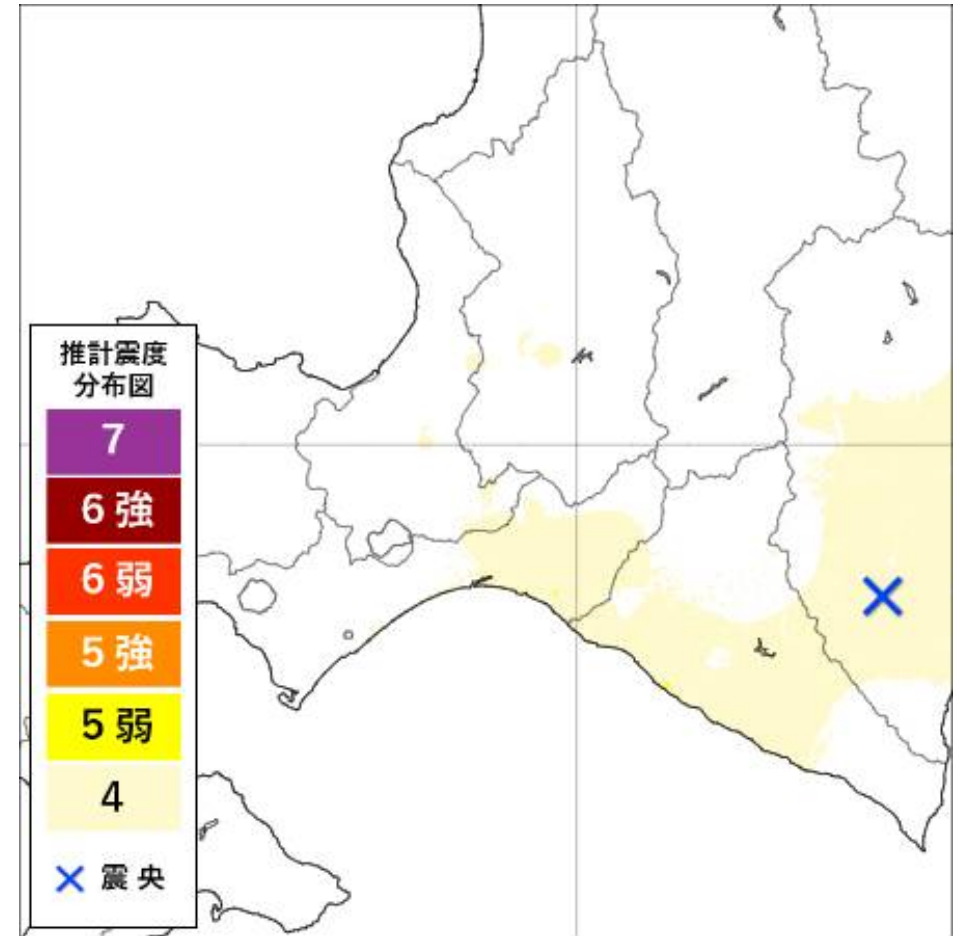
震度分布図・推計震度分布図

【各観測点の震度】



4月27日05時29分発表

推計震度分布図



※留意事項は以下リンクからご確認ください。

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

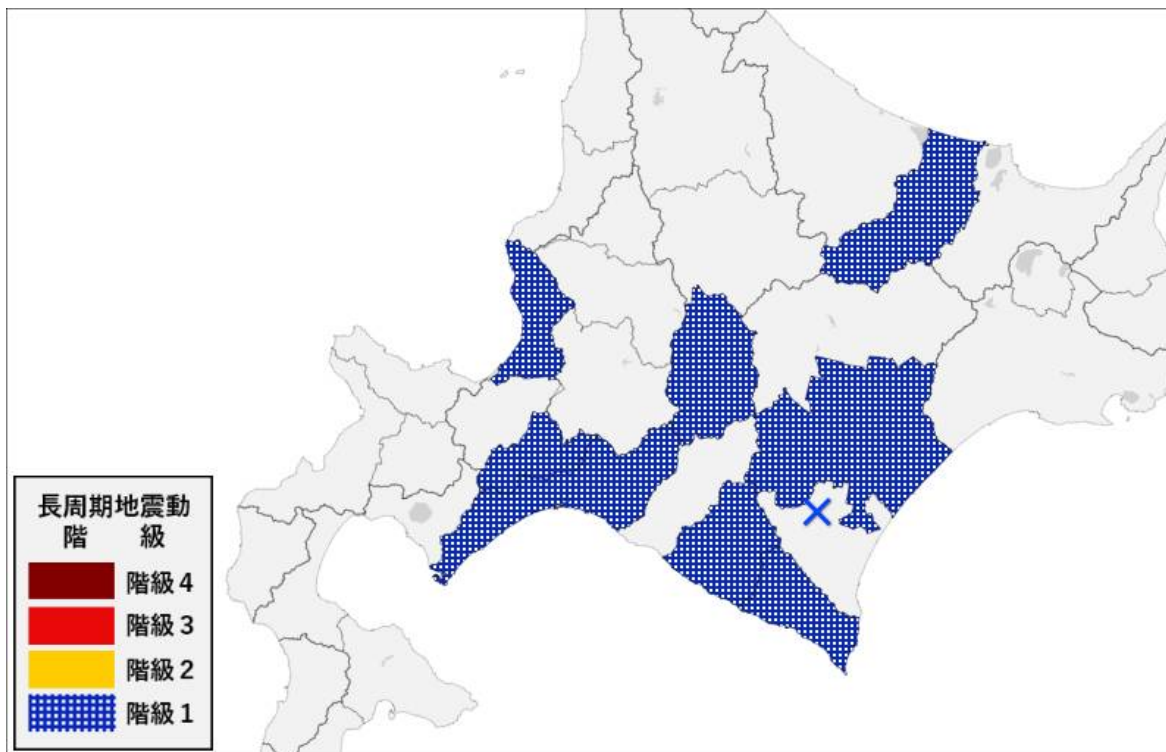
地震情報:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map

推計震度分布図:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map

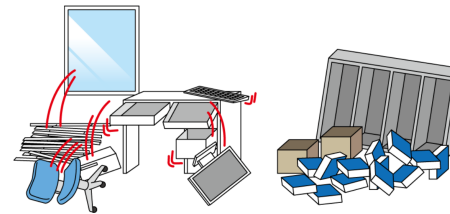
長周期地震動階級の観測状況

階級	地域名称
階級1	胆振地方中東部 日高地方中部 日高地方東部

4月27日05時34分発表



階級4



立っていることができない

階級3



立っていることが困難

階級2



物につかまりたいと感じる

階級1



ほとんどの人が揺れを感じる

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

長周期地震動に関する観測情報:<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>

長周期地震動地域区分市町対応表

観測地域	都道府県名	該当市町
胆振地方西部	北海道 (胆振地方)	伊達市、壮瞥町、洞爺湖町、豊浦町
胆振地方中東部	北海道 (胆振地方)	室蘭市、登別市、苫小牧市、白老町、安平町 厚真町、むかわ町
日高地方西部	北海道 (日高地方)	日高地方日高町、平取町
日高地方中部	北海道 (日高地方)	新冠町、新ひだか町
日高地方東部	北海道 (日高地方)	浦河町、様似町、えりも町

防災上の留意事項と今後の見通し

(防災上の留意事項)

この地震による津波の心配はありません。

揺れの強かった地域では、落石や崖崩れなどの危険性が高まっていますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意してください。

(今後の地震活動の見通し)

過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度5強程度の地震に注意してください。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。

(北海道・三陸沖後発地震注意情報について)

北海道・三陸沖後発地震注意情報を発表中です。

(今回の地震と北海道・三陸沖後発地震注意情報との関係)

今回の地震は、北海道・三陸沖後発地震注意情報で注意を呼び掛けている対象地震ではなく、北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表基準に該当する地震でもありません。

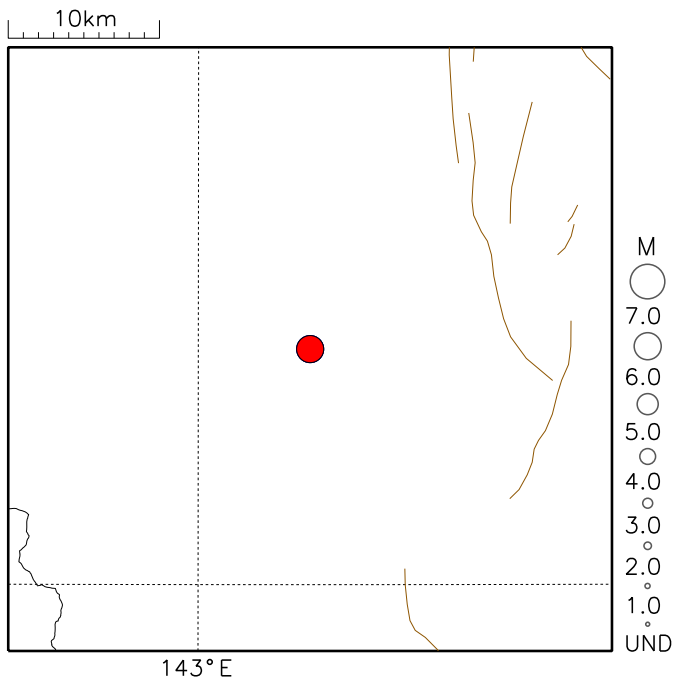
今回の地震活動

震央分布図（詳細図）

震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

深さ50 -- 700km、 M 全て

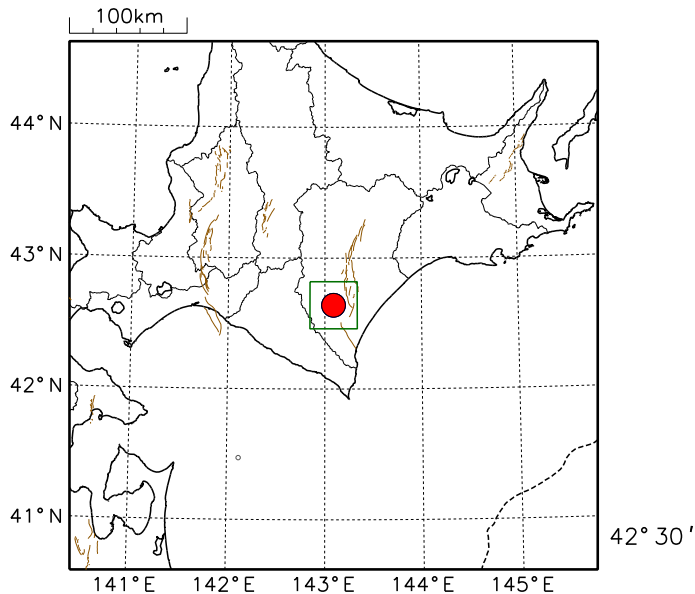
2026 04 27 03:00 -- 2026 04 27 06:30



震央分布図（広域図）

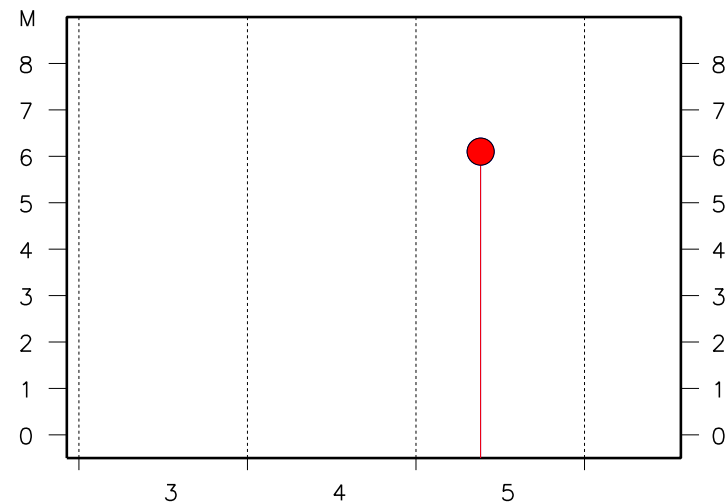
深さ50 -- 700km、 M 全て

2026 04 27 03:00 -- 2026 04 27 06:30



震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

2026 04 27 03:00 -- 2026 04 27 06:30



(震源の色について)赤色：今回の地震 青色：今回の地震より後に発生した地震 灰色：今回の地震より前に発生した地震

- ・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- ・震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

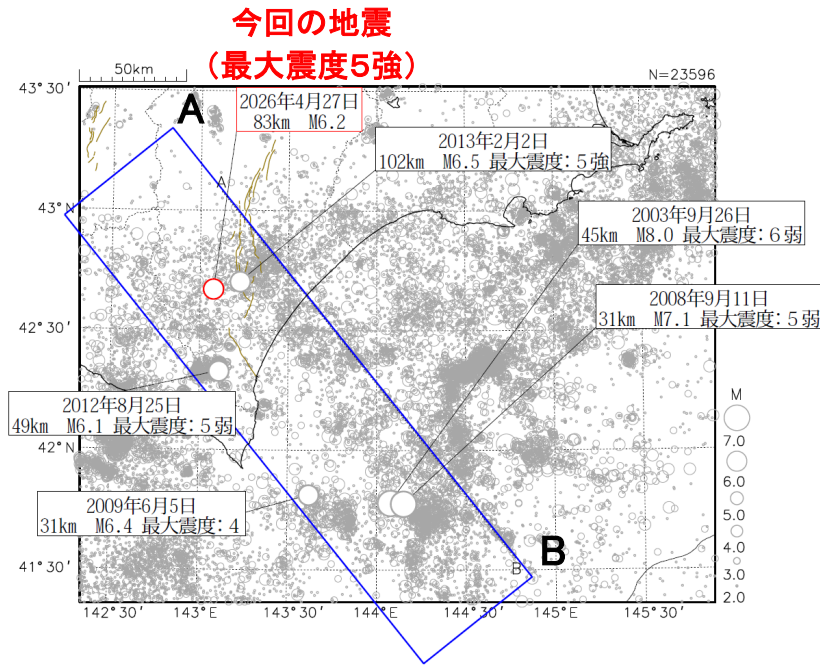
<資料の利用上の留意点>

- ・表示している震源は、速報値を含みます。
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

令和8年4月27日 十勝地方南部の地震 (発生場所の詳細)

震央分布図

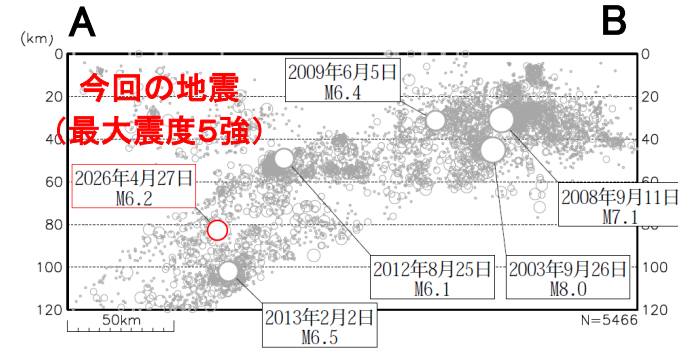
(1997年10月1日～2026年4月27日05時25分
、深さ0～120km、M2.0以上)



丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

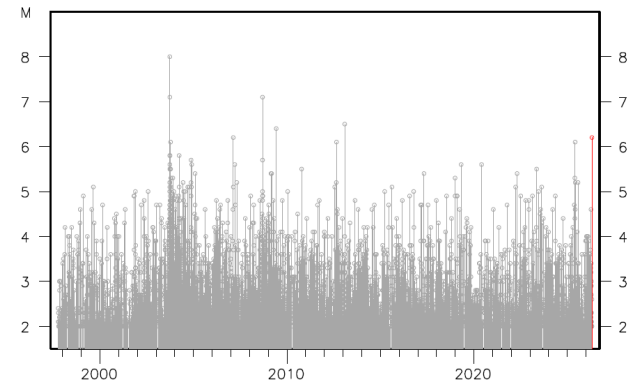
今回の地震を赤色で表示

左図の四角形領域内のA-B断面図



縦軸は深さを表し、丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

左図の四角形領域内の地震活動経過図



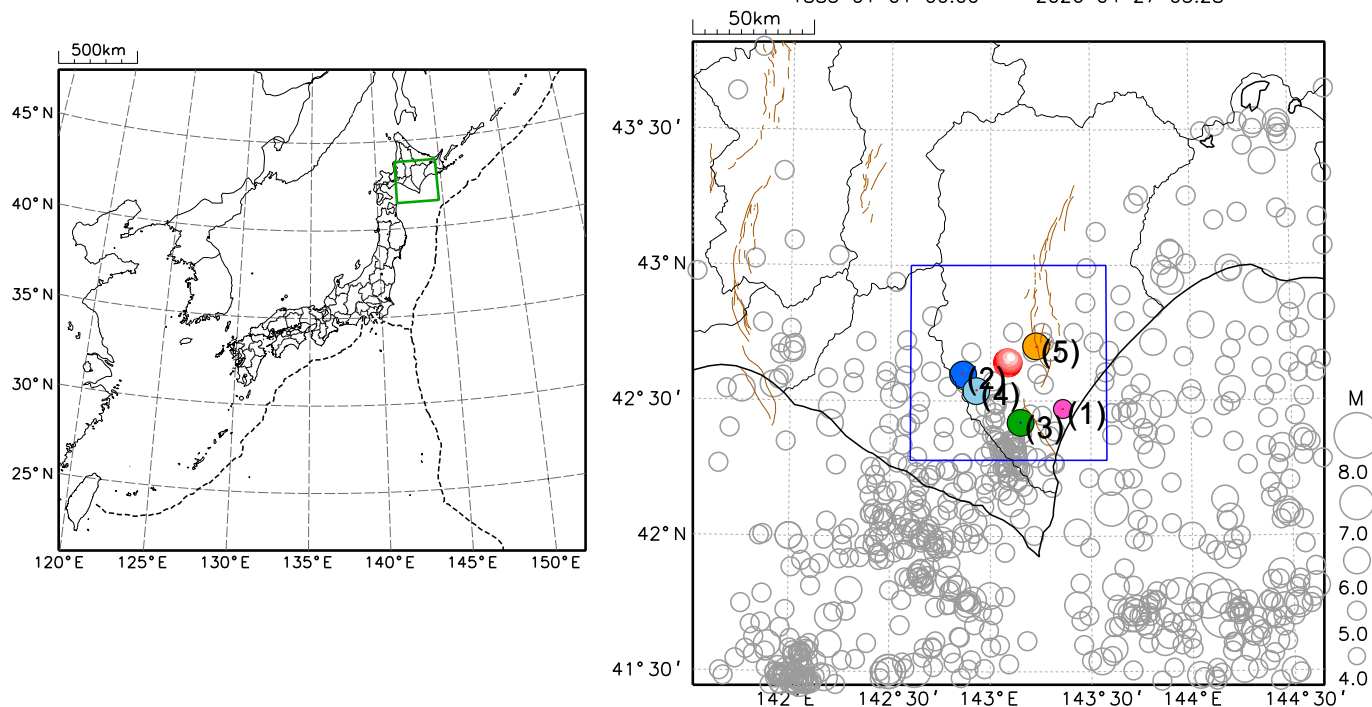
横軸は時間、縦軸はマグニチュード、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

今回の地震周辺の過去の主な地震活動

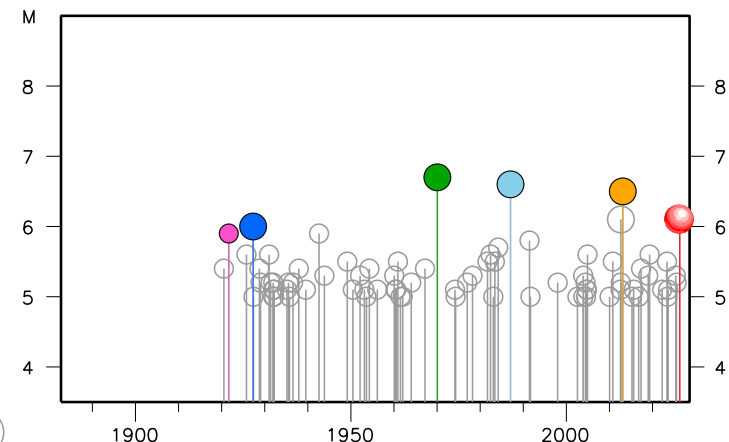
震央分布図

M 5.0 , 深さ : 0 ~ 150km
今回の地震を赤く表示

1885 01 01 00:00 -- 2026 04 27 05:28



震央分布図の青色矩形内のM-T図



過去の主な地震

主な地震のシンボルの色と番号の対応
桃：(1), 青：(2), 緑：(3), 水：(4), 黄：(5)

(1) 1921年8月28日 M:5.9 十勝地方南部

(2) 1927年4月22日 M:6.0 十勝地方南部

(3) 1970年1月21日 M:6.7 十勝地方南部

(4) 1987年1月14日 M:6.6 十勝地方南部

(5) 2013年2月2日 M:6.5 十勝地方南部

・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

・震央分布図中の黒色の太破線は、海溝軸を示す。

・1885年から1918年の地震の震源要素は、宇津（1982,1985）及び茅野・宇津（2001）による。

<地震の名称について>

・気象庁が定めた地震の名称を「」で示す。

・上記以外で、被害を伴い、広く社会的に地震の名称として知られているものについて、名称（「」を付加しない）を併記している。

名称は、「日本の地震活動（第2版）」（地震調査研究推進本部）による。

・地震の名称の後ろの[]は、この規模の順に近接して発生した主な地震が他にあることを示す。

名称は、最大規模の地震にのみ付加しており、[]内に記載した他の地震が異なる番号で記載される場合がある。

<資料の利用上の注意点>

・今回の地震は、速報値を表示しており、精査後に修正する場合がある。

・過去の地震活動は、M5.0以上の地震、今回の地震は、M4.0以上の地震を表示している。

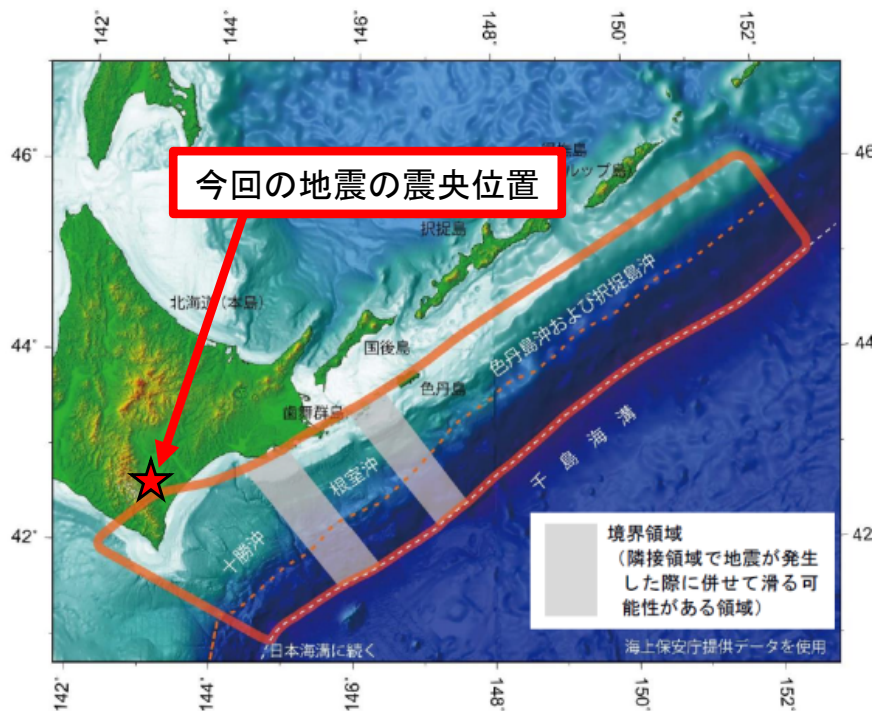
・過去の地震活動は、地域、時期に依らず、全てM5.0以上の地震を表示している。地域や時期により検知能力（ ）が異なる場合がある。

検知能力：特定の地域、時期において、あるM（規模）以上の地震は、概ね全て検知できていると考えられるとする。

この場合、そのMが小さいほど検知能力が高いと言う。

一般的に、同時期であれば、海域より陸域の方が検知能力は高く、同一地域であれば、時期が新しいほど検知能力は高い。

●千島海溝沿いの海溝型地震の想定領域(注1)



赤枠はプレート間地震に関する評価対象領域で、プレート内地震は赤枠外で発生した地震も評価対象。赤い点線は、海溝寄りの領域を分ける線。

●海溝型地震の長期評価の概要(千島海溝沿い)(注1)

評価対象地震	発生領域	規模	ランク(注2)	平均発生間隔
超巨大地震 (17世紀型)	十勝沖から択捉島沖 (根室沖を含む可能性高い)	M8.8程度以上	Ⅲ * ランク	約340年~380年
プレート間 巨大地震	十勝沖	M8.0~8.6程度	Ⅱ ランク	80.3年
	根室沖	M7.8~8.5程度	Ⅲ * ランク	65.1年
	色丹島沖及び択捉島沖	M7.7~8.5前後	Ⅲ ランク	35.5年
ひとまわり小さい プレート間地震	十勝沖・根室沖	M7.0~7.5程度	Ⅲ ランク	20.5年
	色丹島沖及び択捉島沖	M7.5程度	Ⅲ ランク	13.7年
海溝寄りの プレート間地震 (津波地震等)	十勝沖から択捉島沖の海溝寄り	Mt8.0程度	Ⅲ ランク	39.0年
沈み込んだ プレート内の地震	やや浅い領域(深さ50km程度)	M8.4前後	Ⅲ ランク	88.9年
	やや深い領域(深さ100km程度)	M7.8程度	Ⅲ ランク	39.0年
海溝軸外側の地震	千島海溝の海溝軸外側	M8.2前後	Xランク(注3)	—

●海域で発生した規模の大きな地震後に見られた地震活動の例

過去には、2008年の茨城県沖の地震のように、大きな地震の発生後、より大きな地震が発生し、当初の活動域が広がった例もあります。しかし、2004年の釧路沖の地震のように、より大きな地震は発生せず、地震活動域が広がらなかった例もあります。

(注1) 2017年12月19日公表の「千島海溝沿いの地震活動の長期評価(第三版)」より引用。

(注2) 海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%~26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明(すぐに地震が起きることを否定できない)を「Xランク」と表記しています。ランクに「*」を付記している場合は、地震後経過率が0.7以上を表しています。

(注3) 海溝軸外側の地震については、過去に発生した履歴が無く、確率は不明です。しかし、評価対象領域の北東側では2007年にM8.2(Mw8.1)が、隣接する日本海溝沿いの領域では1933年にM8.1(Mw8.4)の地震(昭和三陸地震)が発生しているため、同様の規模の地震が千島海溝でも発生する可能性があります。

※本資料は以下を基に作成しました。

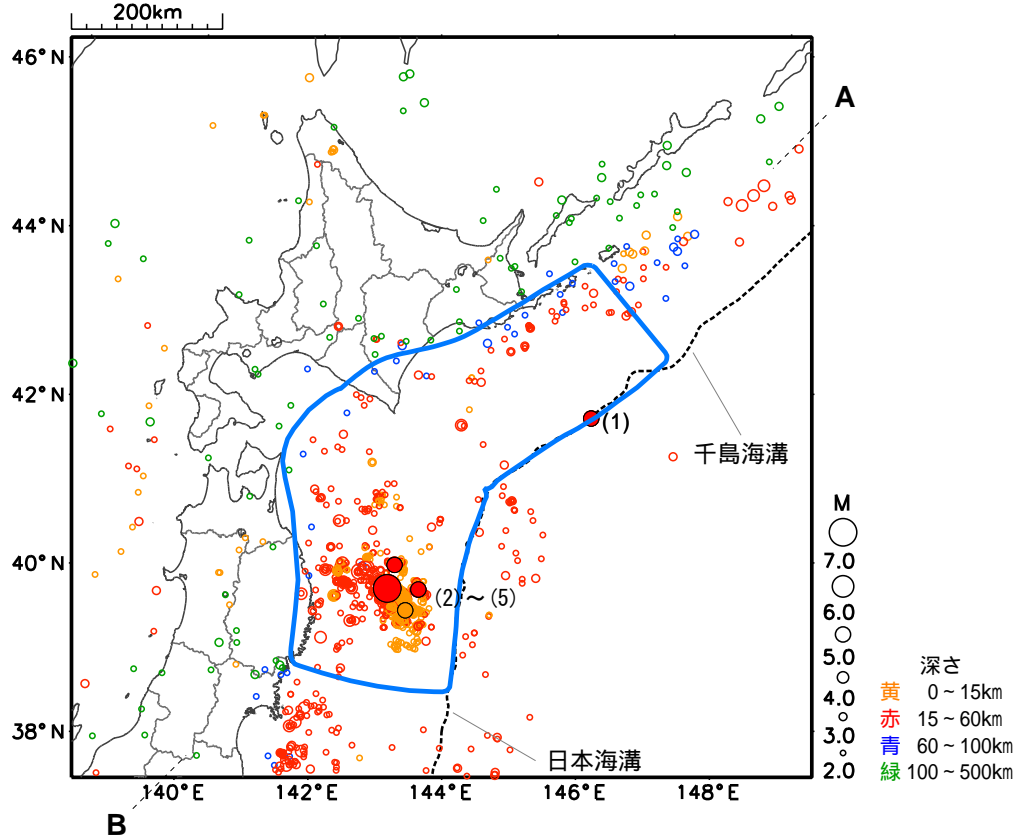
「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」(地震調査研究推進本部) <https://www.jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran.pdf>

「千島海溝沿いの地震活動の長期評価(第三版)」(地震調査研究推進本部) https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/chishima3.pdf

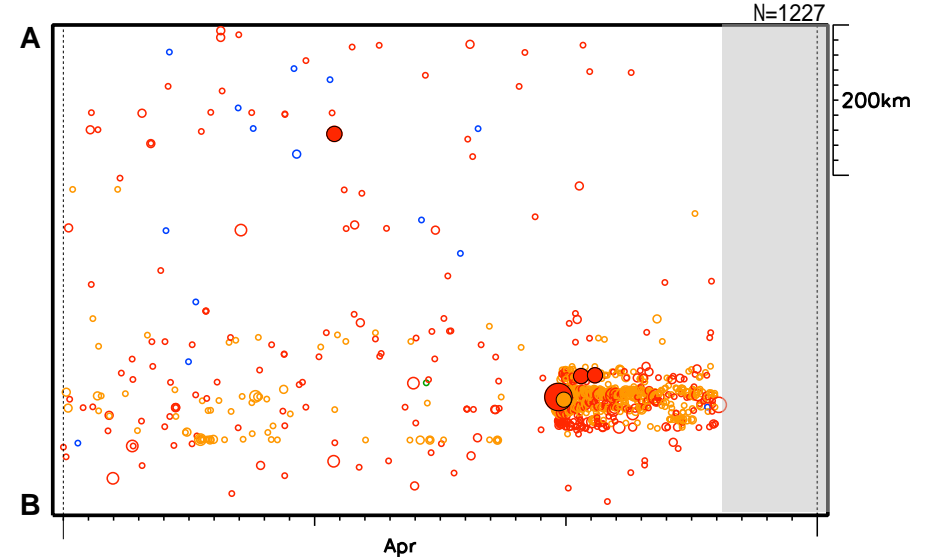
最近の千島海溝・日本海溝周辺の地震活動

2026年4月1日～4月26日

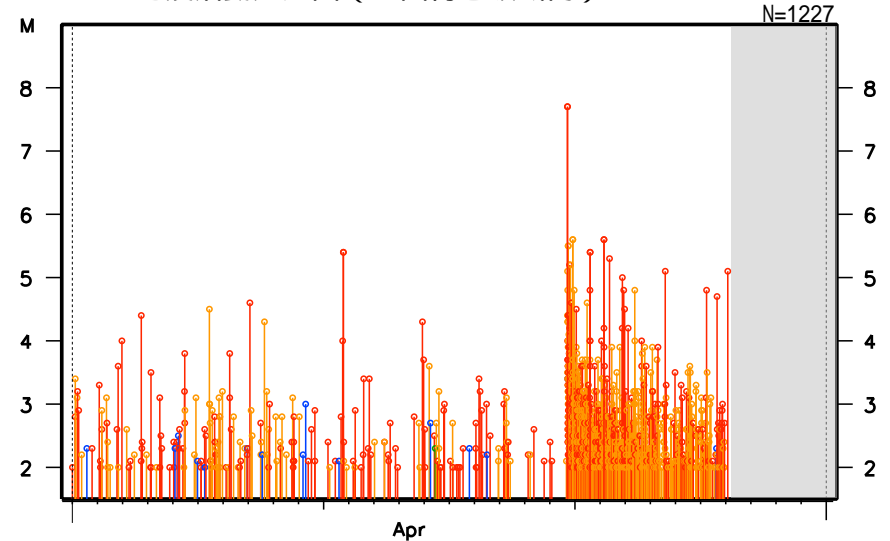
震央分布図 (2026年4月1日～4月26日、M 2.0、深さ0～500km)



時空間分布図 (左図青色領域内: A-B投影)



地震活動経過図 (左図青色領域内)



青の実線は千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震の想定震源域のうち「十勝・根室沖」及び「日高・三陸沖」の領域です。震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがあります。

[主な地震活動]

- ・ 上図青色領域内で発生したM5.0以上の地震 (最大5つ)
- ・ 近接して発生した地震については、最大規模の地震のみ記載
- ・ 2026年4月26日の震源データは未精査

- (1) 04月11日 18時49分 M5.4 最大震度2 釧路沖
- (2) 04月20日 16時52分 M7.7 最大震度5強 三陸沖
- (3) 04月20日 21時56分 M5.6 最大震度3 三陸沖
- (4) 04月21日 14時29分 M5.4 最大震度1 三陸沖
- (5) 04月22日 03時44分 M5.6 最大震度2 三陸沖

発表した情報などについて

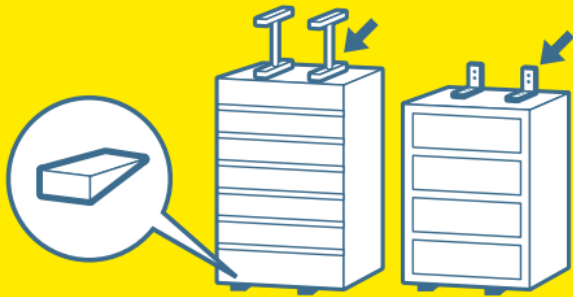
- 津波警報等の発表状況
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tsunami>
- 津波の観測状況
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#elem=info&contents=tsunami>
- 潮位観測情報
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tidelevel>
- 地震情報
https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map
- 推計震度分布図
https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map
- 長周期地震動に関する観測情報
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>
- 緊急地震速報の発表状況
https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/pub_hist/index.html
- 発震機構解
<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/mech/top.html>
- 震央分布
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=hypo>
- 地震から身を守るために
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jishin/jishin_bosai/index.html
- 津波から身を守るために
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jishin/tsunami_bosai/index.html
- 気象庁防災情報X(旧Twitter)
https://x.com/JMA_bousai



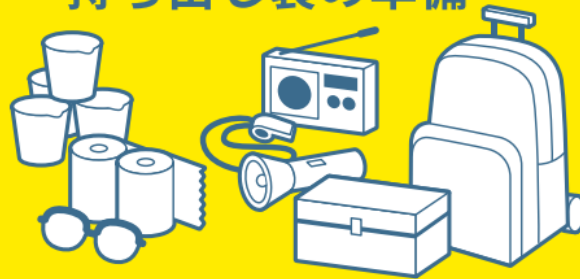
日頃からの地震への備え

日本国内では、いつどこで強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありませんので、日頃からの地震への備えを心がけてください。

□ 家具の固定



□ 非常用 持ち出し袋の準備



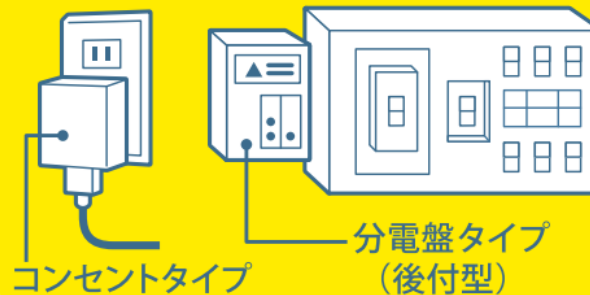
□ 水や食料の備蓄



□ 避難場所や 避難経路の確認



□ 感震ブレーカーの設置



□ 建物の耐震化



日頃からの備えについては、以下のページでもご確認いただけます。

地震から身を守るために：https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/jishin_bosai/index.html
津波から身を守るために：https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/tsunami_bosai/index.html

北海道・三陸沖後発地震注意情報 について

北海道・三陸沖後発地震注意情報の概要

本日（20日）16時52分に三陸沖で地震発生
モーメントマグニチュード※：7.4

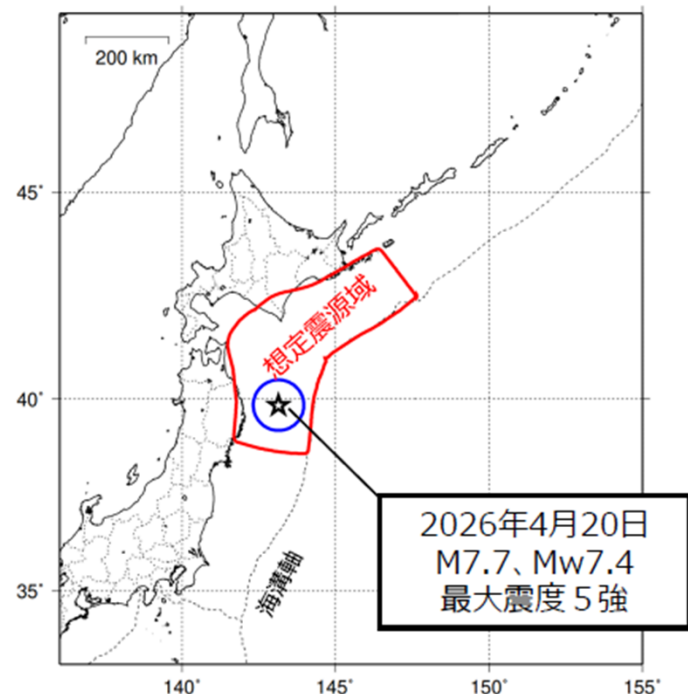
今回の地震の発生により、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖にかけての巨大地震の想定震源域では、新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると考えられます。

今後、もし大規模地震が発生すると、巨大な津波が到達したり、強い揺れとなる可能性があります。

なお、新たな大規模地震が発生する可能性は平常時と比べると高まっていますが、過去の世界的な事例を踏まえるとその確率は百回に1回程度と低く、特定の期間中に大規模地震が必ず発生するということをお知らせするものではありません。

※モーメントマグニチュード（Mw）は、震源断層のずれの規模を精査して得られるもので、地震発生直後に地震波の最大振幅から計算し津波警報等や地震情報の発表に用いるマグニチュードとは異なります。北海道・三陸沖後発地震注意情報は、Mw7.0以上の地震が想定震源域に影響を与える場所で発生した場合に発表されます。

今回の地震と想定震源域の位置関係

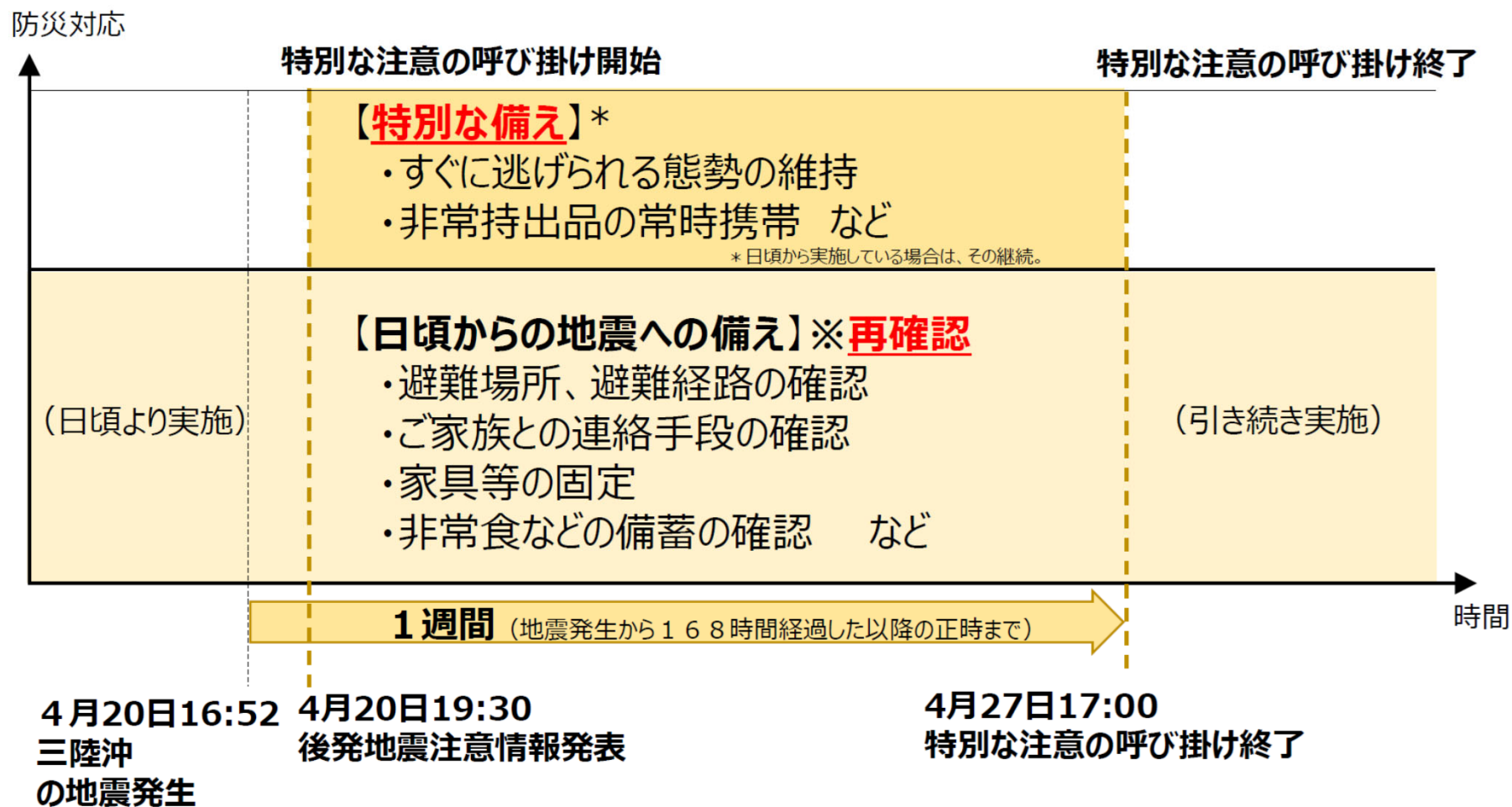


・赤色領域は、千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震の想定震源域。
・青色領域は、今回の地震が影響を与える領域。今回の地震の震央を中心として、モーメントマグニチュード（Mw）から経験式（宇津の式： $\log_{10}L=0.5Mw-1.85$ ）を使って求めた断層長L(km)を半径とする円を示す。

後発地震注意情報発表に伴う特別な注意

＜北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表に伴い防災対応をとるべき地域＞

- ・「**特別な備え**」及び「**日頃からの地震への備えの再確認**」を実施し、
その上で社会経済活動を継続してください。



防災対応（住民）

- ・ 次の地震により揺れを感じたり津波警報等が発表されたら、直ちに避難することが重要です。
- ・ 地震への備えとして、以下の事項を実施してください。

日頃からの地震への備えの再確認

- 安全な避難場所・避難経路の確認、ご家族との連絡手段の確認、家具の固定、非常食などの備蓄の確認 など



日頃からの地震への備えの再確認

後発地震注意情報の発表に伴う特別な備え

- 昼夜問わず津波警報等が発表されても速やかに避難し命を守ることができるよう、すぐに逃げられる態勢の維持や非常持出品の常時携帯 など



非常持出品の常時携帯

を実施した上で、**社会経済活動を継続**してください。

防災対応（住民） ～日頃からの地震の備え～

- 情報が発表された際に、慌てず防災行動をとるためには、日頃からの地震への備えが大切です。下記のような備えは日頃から行き、情報が発表された際に再確認することが重要です。
- このような備えをすることで、強い揺れや津波等から命を守ることに繋がる他、地震発生後の避難生活の備えとなります。

迅速な避難体制・準備

- ✓ 地域のハザードマップでどのような危険があるかを確認する
- ✓ 安全な避難場所・避難経路等を確認する
- ✓ 家族との連絡手段を決めておく
- ✓ 非常持出品を準備しておく
 - ・食料、水、常備薬
 - ・懐中電灯、携帯ラジオ
 - ・身分証明書、貴重品 等



出火や延焼の防止対策

- ✓ 火災警報器の電池切れがないことを確認する
- ✓ 漏電遮断機や感震ブレーカー等を設置する



室内の対策

- ✓ 窓ガラスの飛散防止対策をする
- ✓ タンス類・本棚の転倒防止対策をする
- ✓ ベッド頭上に物を置かない

地震発生後の避難生活の備え

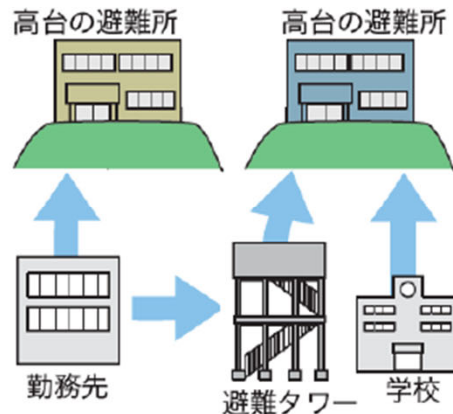
- ✓ 水や食料の備蓄を多めに確保する
- ✓ 簡易トイレを用意する
- ✓ 携帯ラジオや携帯電話の予備バッテリー等を準備する



防災対応（事業者等）

- 避難場所、避難経路及び避難誘導手順の再確認の徹底や、
- 従業員や施設利用者への情報の正確かつ迅速な伝達など、

揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした場合に、従業員や施設利用者が直ちに避難できる態勢をとった上で、社会経済活動を継続してください。



避難経路、避難誘導手順等の再確認



従業員や施設利用者への情報伝達